



令和8年度

徳島県小学校教育課程研究集会

－ 体 育 －



現行学習指導要領の改訂スケジュール

H26 年度 (2014)	H27 年度 (2015)	H28 年度 (2016)	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	H31 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	R5 年度 (2023)	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)
中教審諮問 (11月)		中教審答申 (12月)										
		改訂(3月)										

周知・
徹底

全面実施（7年目）



次期改訂に向けて

次期学習指導要領を見据えつつ
現行の学習指導要領を着実に実施すること

R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)
中教審諮問 (11月)		中教審答申 (12月)
		改訂(3月)



現行の学習指導要領が目指していること

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実



何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・
科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語
教育の教科化

高校の新科目
「公共」の新設

各教科等で育む資質・能力を明確
化し、目標や内容を構造的に示す



どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニン
グ」）の視点からの学習過程の改善



新しい時代に求められる資質・能力の育成を図るための
学習過程の質的改善



初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】

子供たちを取り巻くこれからの社会の状況

- 不確実性の高まり(少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等)
→子供たちは、激しい変化が止まることがない時代を生きる
- 労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換
→自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性
- 内なるグローバル化やデジタル化の負の側面等による社会の分断の芽への指摘
→多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性
- テクノロジーは変化に伴う困難だけでなく多様な個人の思いを具現化するチャンスも生み出す
→生産年齢人口が急減する中、あらゆる資源を総動員し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが不可欠

現在の学校現場の状況

- 現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示
- コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善が行われてきた
- 全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている
→我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けている

顕在化している課題

① 主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- ・ 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- ・ 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- ・ これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

② 学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- ・ 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- ・ 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③ デジタル学習基盤の効果的な活用

- ・ デジタル学習基盤(*)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- ・ 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- ・ 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

(※) GIGA スクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤

- 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きい

→これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要

- 教師の努力と熱意に対して過度な依存はできず、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性

→令和6年8月の中央教育審議会答申に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展

※別途諮問している「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について」に係る検討と連携



**顕在化している課題等から、
体育科の授業づくりを改めて問い直す
(運動領域)**



顕在化している課題

①主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- 学が意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公平な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

②学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③デジタル学習基盤の効果的な活用

- デジタル学習基盤(※)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

系統性を踏まえた指導

主体的に学習に取り組む態度の評価

深い学びを実現する効果的なICTの活用



小学校から高等学校までの12年間の系統性、
 発達の段階を踏まえて、4年ごとのまとまりで指導内容を体系化

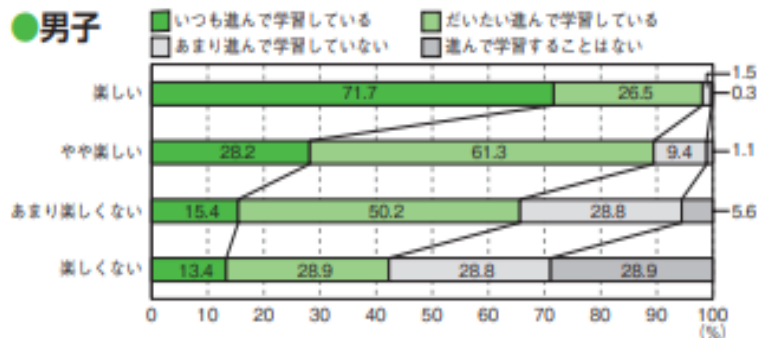
各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるようにする時期	
小1・2年生	小3・4年生	小5・6年生	中1・2年生	中3年生・入学年次	次の年次・それ以降
体づくりの運動遊び	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動
器械・器具を使つての運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技
水遊び	水泳運動	水泳運動	水泳	水泳	水泳
表現リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技
			武道	武道	武道
			体 育 理 論	体 育 理 論	体 育 理 論
	保健	保健	保 健	保 健	保 健

☐ は選択

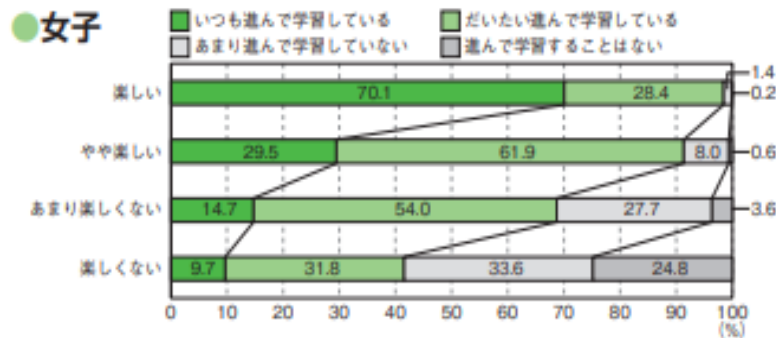


質問9「体育の授業は楽しい」× 質問11「体育の授業では進んで学習に参加している」

●男子



●女子



令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書 p.89



体育科改訂の要点(抜粋)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する観点から、発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で育成することを目指す具体的な内容の**系統性を踏まえた指導内容の一層の充実**を図ること。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編p.8



- ・運動が苦手な児童が、どうしたら進んで学習するようになるのだろうか？
- ・進んで学習する子供の具体的な姿について悩むことがある。
- ・主体的な学びに向かうことができるようにするための体育科の授業づくりのポイントは何だろうか？





「跳の運動遊び」「高跳び」「走り高跳び」

三つの柱をバランスよく育む

知識及び技能

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
次の運動遊びの <u>楽しさに触れ</u> 、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。 跳の運動遊びでは、 <u>前方や上方に跳んだり</u> 、連続して跳んだりすること。	次の運動の <u>楽しさや喜びに触れ</u> 、その行い方を知るとともに、その <u>動きを身に付ける</u> こと。 高跳びでは、 <u>短い助走から</u> 踏み切って跳ぶこと。	次の運動の <u>楽しさや喜びを味わい</u> 、その行い方を理解するとともに、その <u>技能を身に付ける</u> こと。 走り高跳びでは、 <u>リズムカルな助走から</u> 踏み切って跳ぶこと。

思考力、判断力、表現力等

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	自己の能力に適した課題を <u>見付け</u> 、動きを見に付けるための <u>活動や競争の仕方</u> を工夫するとともに、 <u>考えたことを友達に伝える</u> こと。	自己の能力に適した課題の <u>解決の仕方</u> 、 <u>競争や記録への挑戦の仕方</u> を工夫するとともに、 <u>自己や仲間の考えたことを他者に伝える</u> こと。

学びに向かう力、人間性等

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、 場の安全に気を付けたりすること。	運動に <u>進んで取り組み</u> 、 <u>きまり</u> を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、 <u>友達の考えを認めたり</u> 、場の安全に <u>気を付けたり</u> すること。	運動に <u>積極的に取り組み</u> 、 <u>約束</u> を守り <u>助け合</u> って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、 <u>仲間の考えや取組を認めたり</u> 、場の安全に <u>気を配ったり</u> すること。



第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること	短い助走から踏み切って跳ぶこと	リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと

教科の目標（抜粋）

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

特性に応じた課題やその解決方法に関する知識及び技能を、状況に応じて既存の知識と関連付けることで、様々な場面で活用できる概念としていくことや、**習熟した技能として身に付けることが必要**であることを示している。



第5学年及び 第6学年	走り高跳び リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと	走り幅跳び リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと
----------------	------------------------------	------------------------------

技能についても同様に、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが重要である。

例えば、走り幅跳びにおける走る・跳ぶ・着地するなど種目特有の基本的な技能は、それらを段階的に習得してつなげるようにするのみならず、類似の動きへの変換や他種目の動きにつなげることができるような気付きを促すことにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの中で主体的に活用できる習熟した技能として習得されることになる。

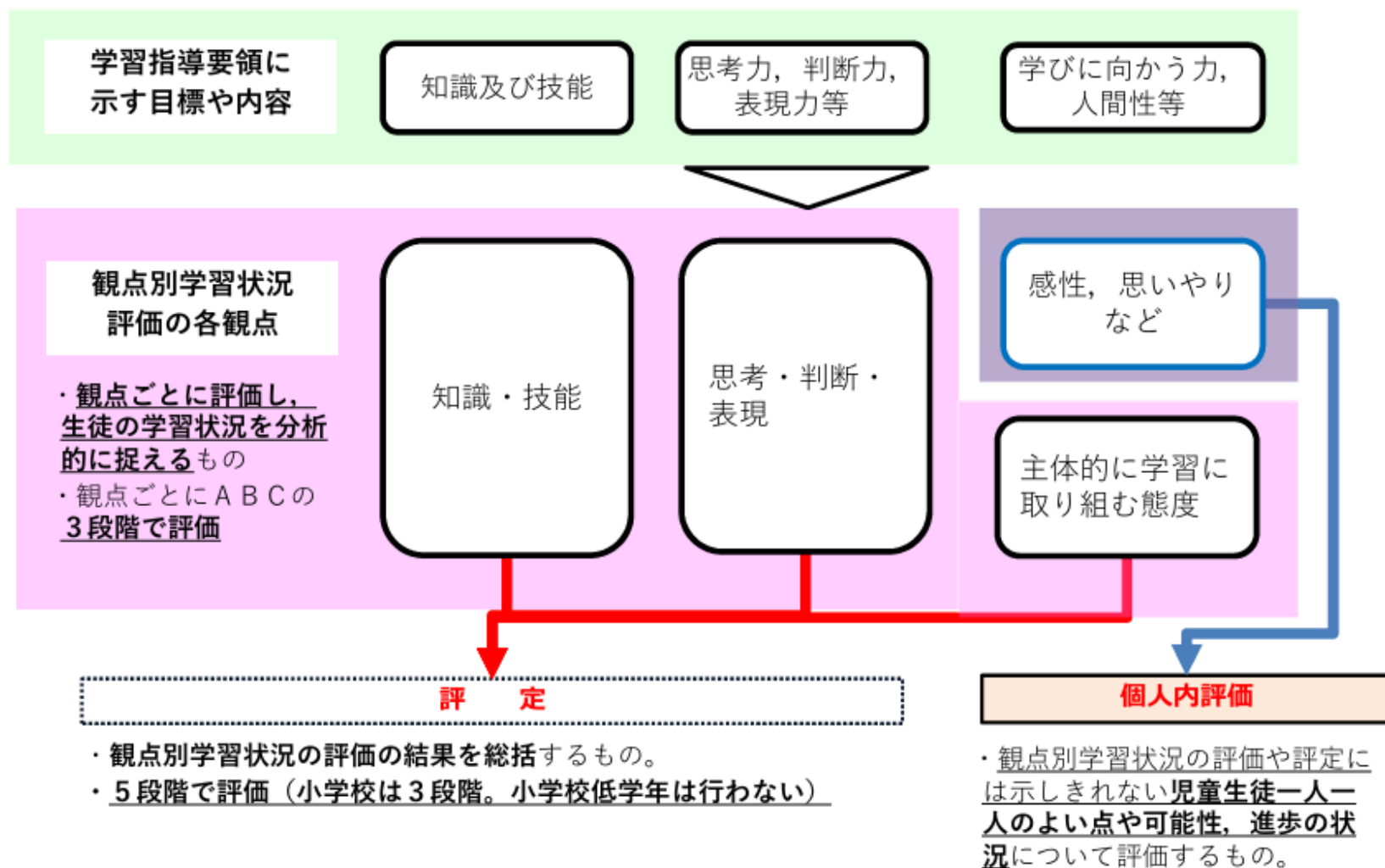


学びに向かう力、人間性等 に目を向けてみると・・・

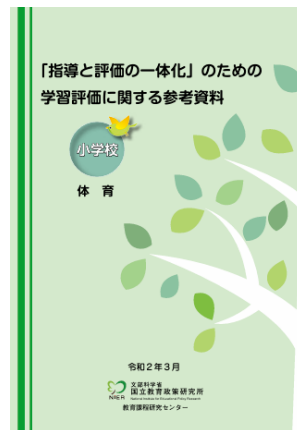
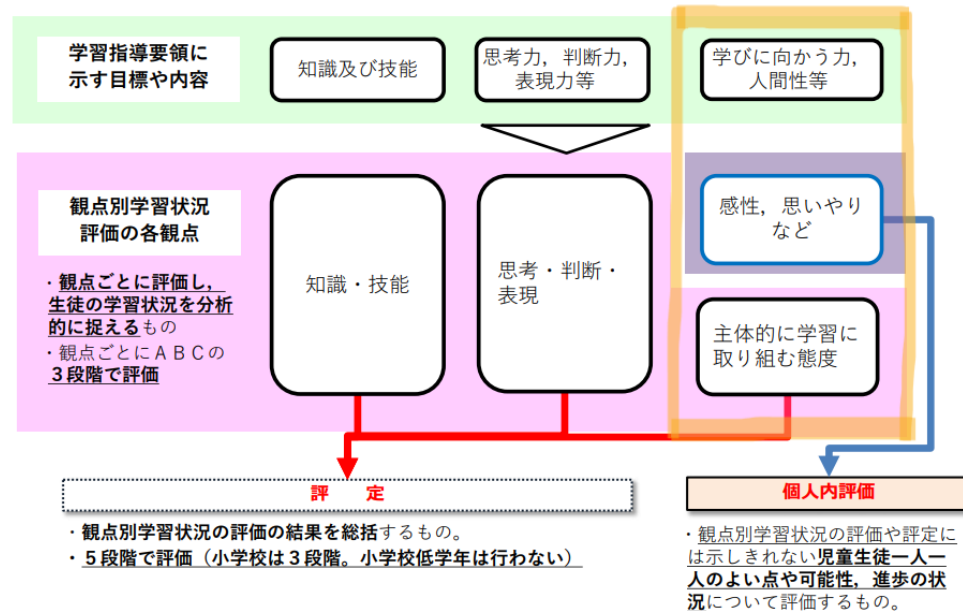
第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
運動遊びに進んで取り組み、 順番やきまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、 勝敗を受け入れたり、 場の安全に気を付けたりすること。	運動に進んで取り組み、 きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、 勝敗を受け入れたり、 友達の考えを認めたり、 場や用具の安全に気を付けたりすること。	運動に積極的に取り組み、 約束を守り助け合って運動をしたり、 勝敗を受け入れたり、 仲間の考えや取組を認めたり、 場や用具の安全に気を配ったりすること。

目標〔第5学年及び第6学年〕

(3) は、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標であり、運動やスポーツの価値である、**公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する態度及び意欲的に運動をする態度**を養うことを意図している。



評価の対象に特性があることに留意



各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。例えば、**体育・保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。**

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校編体育)p.11



第5学年及び第6学年 ボール運動

(3) 学びに向かう力、人間性等

(3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合っ
て運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや
取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりす
ること。

愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全



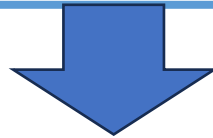
体育科（運動領域）では、
「学びに向かう力、人間性等（公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全）を涵養したり」が入る。

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、

② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、

という二つの側面を評価することが求められる。

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」中央教育審議会 初等中等教育分科会（H31.1.21）



粘り強さ と **自己調整** は主体的に学習に取り組む態度の愛好的態度（進んで・積極的に）の評価で引き取る

民國一〇九年

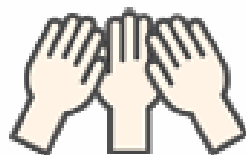


**顕在化している課題等から、
体育科の授業づくりを改めて問い直す
(保健領域)**

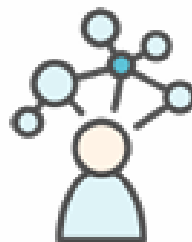


学習指導要領の 理念や趣旨の浸透が道半ば

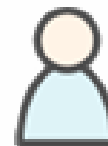
子供の社会参画
の意識



知識と現実の事象
を関連付けて理解



将来の夢を持つ
子供の割合



深い理解を伴う
知識の習得



自律的に学ぶ
自信



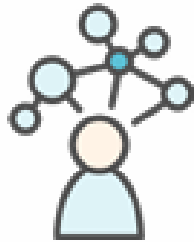
「自分の考え」
を書くこと





保健領域で特に着目すべき「顕在化している課題」

知識と現実の事象
を関連付けて理解



- ・児童が既に生活経験を通して知っていることを取り扱うことが多いから、授業が盛り上がらない。
- ・例えば「心の健康」の学習では、「今は不安や悩みはない」という児童が少なからずいるので、なかなか現実の生活や行動と関連付かない。

深い理解を伴う
知識の習得



- ・教科書を読んで、大事なところを丁寧に確認しているから、知識はしっかりと理解できているはず。
- ・教科書の内容がたくさんあるので、どうしても時間が足りなくなってしまう。

「概念」としての知識の習得や深い意味理解



「概念」としての知識の習得や深い意味理解



【概念】心と体は深く影響し合っている



「不安(心)」があると、「やる気(心)」が出ないよ！

「やる気」は心だね。
正解は「お腹が痛い(体)」だよ。



正解は「お腹が痛い」か。でも、「やる気」が出ないこともあるよね。

「概念」の習得には至っていない

どのように学ぶか

心から体への影響は意識できていなかったな。
確かに、心と体はつながっている！



「概念」の習得へ



知識と現実の事象
を関連付けて理解



深い理解を伴う
知識の習得



体育科改訂の要点

保健領域においては、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善すること。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 p.8

これらの資質・能力を育成するためには、（略）児童が身近な生活における健康・安全に関心をもち、自ら考えたり、判断したりしながら、健康に関する課題を解決するなどの学習が重要である。このことにより、現在及び将来の生活において、健康に関する課題に対応して、保健の知識及び技能等を活用して、自己の健康を保持増進するために的確に思考し判断するとともに、それらを表現することができるような資質・能力を育成することを目指している。そのため、健康に関する課題を解決するなどの学習を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図ることが大切である。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 p.19、20



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について問い直す



指導計画の作成

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。(小学校学習指導要領 p154)

どのように学ぶか

心から体への影響は意識できていなかったな。
確かに、心と体はつながっている！



学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」

例えば…

- ◆主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
 - ◆対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
 - ◆学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか
- といった視点で授業改善を進めることが求められる。

(解説p162)



「健康についての自己の課題を見付ける」学習の過程は位置付いているか？

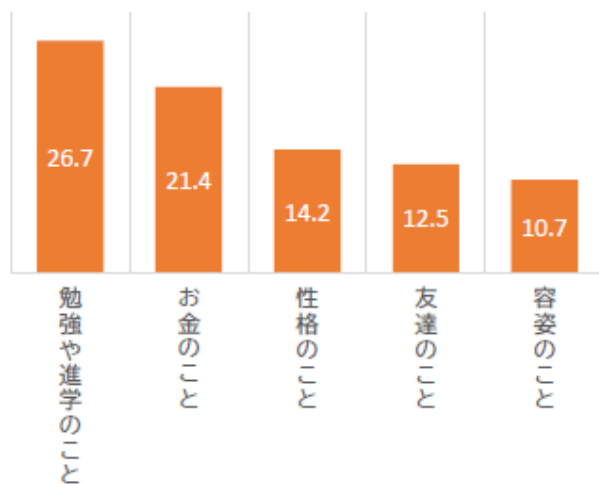


指導計画の作成

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。(小学校学習指導要領 p154)

例えば…

自校の6年生に対する不安や悩みに関するアンケート結果(%)



一番身近な先輩である6年生は、こんな不安や悩みをもっているんだ。

もし、自分がこのような不安や悩みを抱えたらどうすればいいのかな？具体的に考えてみたいな。



指導計画の作成

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や**健康についての自己の課題を見付け**、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 p.161

児童が、課題を見付ける「学習過程」が存在しているか

そのために

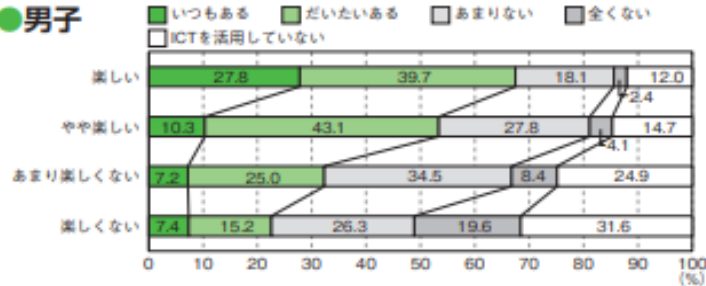
教師は、「手立て」を講じているか



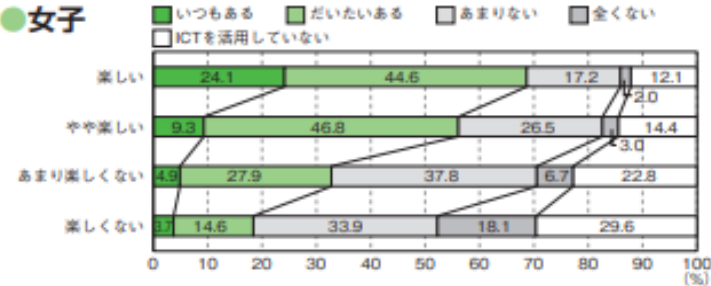
質問9 「体育の授業は楽しい」

× 質問14 「体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり、わかったり』することがある」

● 男子



● 女子



令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書 p.90

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

(3) 第2の内容の指導に当たっては、**コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること**。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うこと（p167）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編体育編

保健体育科においても、各分野の特質を踏まえ、情報モラル等にも配慮した上で、必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるよう配慮することを示している。

例えば、科目体育においては、学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、科目保健においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお、**運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切である。**（p226）

- ・ICTを使うことで、活動そのものの低下を招かないだろうか？
- ・「とにかく使う」という段階から、ICTを活用した「深い学び」を実現するにはどのような活用の仕方があるのだろうか？





デジタル学習基盤の効果的な活用（事例：第5学年「跳び箱運動」）



■単元の目標

- (1) 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

■単元の概要

跳び箱運動は、繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりして、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元では、単元前半は繰り返し系の技、単元後半は回転系の技に取り組むようにする。

単元を通して、児童が自己のできる技に取り組んだり、更にできるようになりたい技に挑戦したりすることで、自己の能力に適した技に積極的に取り組むことができるようにする。

■指導と評価の計画（8時間）

https://www.mext.go.jp/sports/content/20230602-spt_sseisaku02-000022053_33.pdf

時 間	1	2	3	4	5	6	7	8
ね ら い	学習の見通しをもつ	繰り返し系の発展技の解決の仕方を工夫して						
学 習 活 動	オリエンテーション 1 集合、挨拶、健康観察をする 2 単元の学習の見通しをもつ ○単元の目標と学習の進め方を理解する。 ○学習の約束を理解する。 3 本時のねらいを理解して、目標を立てる 4 場や器械・器具の準備をする ○場や器械・器具の準備と片付けの役割分担を理解する。 5 準備運動、主運動につながる運動をする ○準備運動、主運動につながる運動の行い方を理解する。 6 跳び箱運動をする ○繰り返し系、回転系の基本的な技の行い方を確認する。	1 集合、挨拶、健康観察をする 2 準備運動、主運動につな 3 繰り返し系の自己のできる技の発展技をする。 ○自己の能力に適した技の発展技をする。						
評 価 の 重 点								
知識・技能								
思考・判断・表現								
主体的に学習に取り組む態度								

デジタル学習基盤の効果的な活用
「課題の解決のために、ICT端末を活用して動きの改善点を伝える」



小学校体育（運動領域）指導の手引（令和4年3月）スポーツ庁

デジタル学習基盤の効果的な活用（事例：第5学年「跳び箱運動」）



■課題の解決のために、ICT端末を活用して動きの改善点を伝える。

A児は骨形成不全症（遺伝的要因により、骨形成に異常が見られ、骨折がしやすい状態で、負荷がかかる運動、接触がある運動については医師から禁止されている）のため、1人1台のICT端末が普及されるまでは、跳び箱運動は見学が中心であった。しかし、**ICT端末を活用することができるようになり、仲間の動きの改善点を伝えることに自ら取り組むようになった。**

【授業の様子】

「体育の見方・考え方」で学習を捉え直す。

運動やスポーツは「すること」だけでなく、「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性に応じて多様な関わり方があることを学んできた。

A児は、これまで学んできた多様な関わり方から、自分にも仲間を「支えること」ができるのではないかと考えた。

ICT端末を活用し、仲間の動きを撮影する。

仲間が更にできるようになりたい技に挑戦する姿を撮影し、動きの改善点を一緒に考える姿が見られた。その場で改善点が見付からない際には、放課後や家庭でクラウド上に保存された動画を繰り返し視聴し、考えを整理していった。

改善点をプレゼンテーションソフトを活用して伝える。

ICT端末を活用し、動きの改善点をまとめたプレゼンテーションソフトを使って説明し、仲間の活動を支えていた。



仲間の動きを撮影するA児



A児がPowerPointで作成した資料

【当該指導での「深い学び」】

A児は、これまでの体育科の学習で「体育の見方・考え方」を学んではいたが、「支えること」については身体的な面で難しい状況であった。しかし、ICT端末を活用することで、運動やスポーツとの多様な関わり方が可能となった。本単元では、仲間の動きの改善点をプレゼンテーションソフトに自らまとめることで、課題の解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を広げたり深めたりすることができた。そのような学びの過程を通して、**知識の習得だけでなくとどまらず、思考力、判断力、表現力等の育成や学びに向かう力、人間性等の涵養にもつながった。また、本単元以降の学習においても、運動やスポーツに更に積極的に関わろうとする姿に変容していった。**

■指導上の工夫とICTの利活用



①「体育の見方・考え方」を確認する。

*「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方があることを単元を通して確認する。

②課題の解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝える活動を位置付ける。

*ICT端末を使って動きを撮影するだけでなく、課題を解決するためのICT端末の活用例を紹介する。
*体を動かす機会を適切に確保した上で他者に伝える活動を行うことに教師は常に留意する。

③単元の終末に、再度、「体育の見方・考え方」を確認する。

*本単元以降の学習においても「体育の見方・考え方」を働かせて、深い学びが実現することができるよう、「体育の見方・考え方」を再度確認する。



学習指導要領との関連

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

第3章 指導計画の作成と内容の取扱い

Ⅰ 指導計画の作成

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、**体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。**



デジタル学習基盤の効果的な活用（事例：第5学年「走り高跳び」）



■単元の目標

- (1) 走り高跳びの行い方を理解するとともに、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 走り高跳びに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

https://www.mext.go.jp/sports/content/20230602-spt_sseisaku02-000022053_33.pdf

■単元の概要

走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて、リズムカルな助走から力強く踏み切って高く跳んで、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元では、単元前半は運動の行い方を理解し、自己の記録への挑戦をする時間、単元後半はルールを選んで競争や記録への挑戦をする時間を設定することで、自己の課題に応じた練習に取り組んで記録に挑戦したり、自己の能力に適したルールで競争を楽しんだりすることができるようにする。

■指導と評価の計画（8時間）

時間		1	2	3	4	5	6	7
ねらい		学習の見過しをもつ	走り高跳びの行い方を理解し、 自己の記録への挑戦をしようとする		競争のルールや課題の解決のための活動を工夫して、 競争や記録への挑戦をしようとする			学習のまとめをする
学習活動		オリエンテーション 1 集合、挨拶、健康観察 2 単元の学習の見過し ○単元の目標と学習の見過し ○運動の約束を再確認 ○学習の約束を再確認 3 本時のねらいを理解を立てる 4 場や用具の準備をする ○場や用具の準備と安全確認 ○安全確認 5 準備運動、主運動に入る ○準備運動、主運動につながる運動の行い方を理解する。 6 走り高跳びをする ○走り高跳びの行い方と計画の役割分担を理解する。 ○走り高跳びの計画をする。						
		デジタル学習基盤の効果的な活用 「端末を活用して、動きのポイントと照らし合わせて 自己の課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶ」						
評価の重点		知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	① 観察・学習カード	② 観察・学習カード	③ 観察・学習カード	④ 観察・学習カード	⑤ 観察・学習カード	⑥ 観察・学習カード

デジタル学習基盤の効果的な活用
「端末を活用して、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶ」



小学校体育（運動領域）指導の手引（令和4年3月）スポーツ庁



■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第5時）

【学習活動の場面】

本時（第5時）のねらいを「リズムカルな助走を意識した走り高跳びで、競争や記録への挑戦をしよう」と設定した。授業の前半は「自己やチームに適したルールを選んで、競争や記録への挑戦をする」学習活動を行った。授業の後半は、端末を活用して、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶ学習活動を行った。単元の前半は記録が伸びていったB児だが、単元の後半になるにつれ、記録が思うように伸びなくなっていった。

【子供の「深い学び」の姿】

端末を活用し、自己の動きの変化を見付ける。

端末を使い、児童は毎時間自己の動きの確認を行った。

単元の後半、記録が思うように伸びなくなり、意欲が低下しかけたB児には、助走がリズムカルに行えていることを教師が価値付けた。その際、動画を繰り返し視聴し、動きがよかったポイントを具体的に示しながら伝えることで、B児は自信を深めた。また、体育の見方・考え方である体力の向上につながっていることも実感した。

試行錯誤を重ねながら課題の解決を図る。

助走の動きが高まってきたことを実感したB児は、教師の助言も踏まえ、踏切りに着目した。クラウド上に保存された自己と仲間の踏切りの動きを見比べる中で、踏切りだけではなく、上体が起きていないという新たな課題に気付いた。そこで、踏み切った後の上体の様子を動画で撮影してもらい、視聴→試技→視聴を繰り返しながら、上体を起こして力強く踏み切る動きの習得に取り組んだ。

【当該指導での「深い学び」】

記録が思うように伸びなくなったB児に、教師は動きの変容を価値付けたり、体育の見方・考え方に気付かせたりした。その結果、B児の意欲が高まり、新たな課題の解決に向かっていった。さらに、クラウド上に保存された仲間の動きを参考にすることで、課題の解決に向けたヒントを得たり、自己の動きを撮影し、その場で思考し、判断しながら試技を繰り返すことで動きの習得につなげることができた。

【活用したソフトや機能】動画撮影、データのクラウド上への保存

■指導上の工夫とICTの利活用



①記録の捉え方を押さえる。

*学習が進むにつれて記録が頭打ちになることは自然なことであり、その中で少しでも自己の記録を伸ばすことが大切であることを押さえる。

②記録だけでなく、個々の動きの変化を端末を活用して価値付ける。

*教師が、クラウド上に保存された動画を活用し、児童の動きの変化に着目して価値付けることで、自己の体の動きが高まっていることを理解することができるようになる。

③クラウド上に保存された自己と仲間の動きから、課題の解決に向けたヒントを得るように促す。

*見る視点を助走、踏切り、空中動作、着地の四つに絞り、それぞれの動きのポイントを学習資料や端末にまとめておく。その上で、個々の毎時間の動きをクラウド上に保存しておくことで、自己の動きと仲間の動きを照らし合わせながら課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶことができるようになる。



仲間の動きを撮影する



動きの変化を見付ける



学習指導要領との関連

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編
第2章 第2節の〔第5学年及び第6学年〕のC 陸上運動

（2）思考力、判断力、表現力等

○ ICT 機器を活用して自己の課題を見付ける例

- ・ 自己や仲間の走りや跳び方の様子をタブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶこと。



生成AIを活用した魅力的な授業づくり



【なぜ生成AIを使うのか】

○「人間中心のAI社会原則」

- ・2019年に日本政府（統合イノベーション戦略推進会議）が策定
- ・AIと人間が健全に共存するための共通指針
- ・「AIはツール、最終判断は人間」「誰もが平等にAIの恩恵を享受できる」
- ・「社会課題の解決にAIを活用」

○「学習指導要領」

- ・「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として位置づけ
- ・次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会（教育課程企画特別部会）でも、「情報活用能力の抜本的向上」について議論

AIを含むデジタル学習基盤を、単なる便利な道具としてではなく、
「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにどう活用するか。



【生成AIを活用するためのガイドライン】

○「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」
(2024年12月Ver.2.0)

○徳島県教育委員会策定

「学校等における生成AIの当面の方針について(第2版)」

「児童生徒の生成AI活用前に学校が事前に行うことリスト」

「生成AI利用に関するFAQ(教職員向け:第2版)」

「生成AI利用に関するFAQ(生徒・保護者向け:第2版)」

「校務における生成AIの活用について(第1版)」…等

※上記のガイドラインや指針は国や徳島県教育委員会から出されているものである。**各市町村立学校については各市町村教育委員会のガイドラインや指針に従って利用しなければならない。(勝手に生成AIを見童生徒に利用させてはならないことが前提)**



デジタル学習基盤・ハイパフォーマンス知見の活用について

補足イメージ25

活用事例イメージ

- 動きや技等の見本を動画等で確認する
(例) 児童生徒がいつでもどこでも見本の「動き」等を活動者の目線で確認できる動画を視聴
- ウェブ会議システムを用い、双方向性のある活動を実施
(例) 専門家や他の児童生徒集団等とオンラインで接続した授業を実施
- 動き等について画像・動画を撮影し、自身の振り返りや試行錯誤、児童生徒同士の助言や更なる学習活動等に活用
(例) マット運動で、児童が自身の動きを動画で客観視、技の完成度を高めるのに活用
(例) ボール運動（ゴール型）で、チームの動きを動画で確認、次のゲームでの戦略の検討に活用
- 児童生徒が学習の状況等を記録・共有したり、それを用いた振り返り・交流等に活用
(例) 長距離走で、トラックを周回するラップタイムを記録、データを用いてタイムを縮める方策を考え実施
(例) 保健の学習で、各自が学んだ概念を自身の生活と結び付けた例を端末で入力し、リアルタイムで学級全体で共有したうえで、更なる学習活動を展開
(例) ウェアラブル端末等から得られた運動の際の自身の状況に関するデータを分析
- 児童生徒が学習の状況等をまとめ、プレゼンテーション等を行うことに活用
(例) 保健「傷害の防止」で、地域の事故が多い箇所をクラウド上で共同でプロット、その情報を基に要因や事故を減らす方法を整理しプレゼンテーションを実施
- VR技術・アプリ・生成AIその他デジタル技術を活用した異なる視点・経験の活用
(例) VR技術によるプレイメージの明確化、生成AIとのやり取りによる対話型の振り返り
(例) トレーニング支援アプリにより動きの一致率等を判定、データを基にアドバイスし合う
(例) デジタル技術を活用して簡易化した競技スポーツを経験、新たな楽しみを味わう

期待される効果等

- 概念等の理解の支援、理解の深化
- 専門家等活用の可能性の拡大
- 学校内や単一学級等にとどまらない学習活動の広がりや様々な学びへのアクセスを保障
- 学習状況・思考過程・感覚等の可視化
- 児童生徒同士の対話の促進、学習活動の効率化・深化
- 児童生徒の興味・関心の増加、多様な楽しみ方の可能性の拡大
- 学習活動や指導と評価の効率化

子供たちの主体的・対話的で深い学びを支える

教師の効率的・効果的な指導や評価等を支える

主に生成AIに関すること

留意が必要と考えられること

- 機器操作等が目的化しないことへの留意
- 児童生徒の身体活動時間の確保への留意
- 児童生徒の機器等の活用しやすさへの配慮
- 個人情報等への適切な配慮

子供たちの状況等を踏まえた学習活動の確保に十分留意

学びを支える「手段」として「目的」を踏まえ効果的に活用



具体的なプロンプト（指導と評価の計画）

小学校体育の授業で6年生の水泳運動を実施します。10時間実施で学習指導要領に応じた指導と評価の計画を立ててください。

+

Pro ▾





単元の目標

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

小学校体育の授業で6年生の水泳運動を実施します。10時間実施で学習指導要領に応じた指導と評価の計画を立ててください。

小学校6年生の体育（水泳運動）における10時間の指導と評価の計画ですね。高学年では、クロールと平泳ぎの技能向上に加え、自ら課題を見つけて解決する力や、安全に泳ぐための知識も重要になります。

学習指導要領（平成29年告示）の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点に基づいた、10時間の単元計画をご提案します。

第6学年 体育科「水泳運動」単元計画（全10時間）

1. 単元の目標

ファクトチェックを忘れずに

- **知識及び技能:** クロールや平泳ぎで、手足の動きと呼吸を合わせながら続けて長く泳ぐことができるようにするとともに、水上の安全に関する知識を身に付ける。
- **思考力、判断力、表現力等:** 自己の能力に適した課題を見つけ、練習方法を工夫するとともに、互いに動きのポイントを伝え合うことができる。
- **学びに向かう力、人間性等:** 水泳運動に積極的自主的に取り組み、きまりを守り、仲間友達と協力しながら、安全に気を付けて学習することができる。



指導と評価の計画案の提示

2. 10時間の指導計画			
時間	学習内容・活動	指導上の留意点・支援	評価のポイント 述の観点と対
1	オリエンテーション・ 泳力把握 ・安全な水泳学習のルールの確認 ・現在の泳力チェック（クロール・平泳ぎ）	・バディシステムの徹底、体調確認を行う。 ・無理をさせず、個々の実態を正確に把握する。	【態】安全な底、ルール遵
2	目標設定と水慣れ・浮く・進む ・コース別（泳力別）グループ分け ・クロールの基本（キックと呼吸）	・前時の結果をもとに、自分に合った目標を立てさせる。 ・呼吸時の姿勢（ローリング）に気付かせる。	【思】自己のじた目標設定



評価規準

3. 評価規準（3観点）		
評価の観点	評価規準	主な評価方法
知識・技能	クロールや平泳ぎで、手足の動きと呼吸を合わせ、リラックスして続けて長く（または速く）泳ぐことができる。また、自己の命を守るための浮き方や安全な行動について理解し、実践できる。	行動観察、 実技テスト （記録会）、発言内容
思考・判断・表現	自己の泳力や課題を的確に把握し、クロールや平泳ぎの技能を向上させるための練習方法を工夫している。また、ペアやグループで動きのポイントを分かりやすく伝え合っている。	学習カードの記述、行動観察（話し合いの様子）、相互評価
主体的に学習に取り組む態度	水泳運動の楽しさや喜びに 触れ 、自己の目標達成に向けて 進んで 取り組もうとしている。また、安全のルールを守り、用具の準備・片付けを率先して行い、 友達 と協力している。	行動観察、学習カード（振り返り）、自己評価



指導にあたってのアドバイス（またこれから想定される具体の提案）

指導にあたってのアドバイス

高学年の水泳では、個人間の泳力差が顕著になります。「25m泳げる児童」と「水に顔をつけるのが苦手な児童」が混在している場合、距離やタイムだけを絶対評価にせず、「手足のタイミングが合った」「力を抜いて浮けるようになった」といったフォームやプロセス（技能の質）の向上を評価することが大切です。

先生の学校・クラスの実態（泳力差の幅や、クラスの人数、タブレット端末の使用可否など）によって、より具体的な練習メニューを調整することも可能です。

現在のクラスの児童たちの泳力の実態（得意な子と苦手な子の割合など）はどのような状況でしょうか？もし課題があれば、それに合わせたドリル練習などもご提案できます。

提案された案をそのまま使うのではなく、案をベースに自分のイメージに近づける

例えば・・・

単元前半には水慣れの時間を多くとり・・・

安全確保につながる運動は毎時の水慣れで入れたい・・・

横向きの息継ぎが苦手な児童に対する配慮を盛り込んで・・・

独善的な指導や計画にならないため、常に学習指導要領を踏まえ、安全を最優先させるようなプロンプトを



より詳しく具体的なプロンプト例（本時の評価基準作成）

あなたはベテランの小学校体育専科教員です。以下の条件で、体育の評価基準（A・B・Cの姿）と、授業中の具体的な「見取りのポイント」を作成してください。

【対象】小学5年生

【単元】ゴール型ボール運動（バスケットボール）

【今回の重点化ポイント】

- ・「知識・技能」は今回は評価しません。
- ・「思考・判断・表現」において、自己や仲間の伝えたことを他者に伝えることを重点で評価したいです。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」において、勝敗を受け入れる姿も重点で評価したいです。おおむね満足できるBと十分満足できるA、おおむね満足できる状態にするための具体的な支援を設定してください。



どんなことに取り組みましょうか？

+ Gemini に相談

Pro ▾



教師側のAI活用例

○指導と評価の計画の作成 ○評価規準の作成

○場の設定の案出し

○運動が苦手な児童に対する配慮例や障害のある児童など
についての配慮例の提案

○教師の発問作成や、児童の反応の想定

○難解なデータの発達段階に応じた要約 など



どんなことに取り組みましょうか？

+ Gemini に相談

Pro ~



前提条件として

小学生がAIを活用する場合

AIは「思考を広げ、深めるためのパートナー」

「絶対的な正解を教えてくれる先生」ではない

児童のAI活用例

- チームで選んだ作戦の検証や提案
- 自己調整サポートカード（技能）
- フォーム分析・動作認識
- ゲームやボール運動における作戦ボードとして活用
（チームの話し合いが活性化するための案出し）
- 表現運動でのアイデア出し
- 健康的な生活習慣作成のアドバイザー



基本的にはチームのみんなで作戦を選ぶが、その作戦が本当に効果的なのかAIに検証させる。また、プロンプトには「全員が楽しめる」や「みんなが活躍できる」などの条件も



動きをAIに解析してもらい、動きが見やすくなったことでハードルを走り越える動きに対する気づきが促され、技能の向上や協働的な学びにつながる



水泳運動で自己の泳ぎの改善点を壁打ちし、次時の課題設定につなげる
「体育の授業中に長く壁打ちをすると身体活動時間の確保が難しくなる」
活動中はAIと向き合うよりも身体活動時間を確保し、協働は仲間（友達）と」



【協議題】★のいずれかでグループ協議

★生成AIで実際に班で役割を決めプロンプトを入力し、共有しよう
(学習指導要領から外れず、ファクトチェックも、安全面の担保・・・)

入力例

- 水泳運動(水遊び)やマット運動(マットを使った運動遊び)の指導と評価の計画作成(学年は自分の学年)
- フォーム分析・動作認識
- ゲームやボール運動における作戦ボードとして活用
(チームの話し合いが活性化するための案出し)
- 表現運動でのアイデア出し
- 健康的な生活習慣作成のアドバイザー

【協議題】

★生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

- ①AIを活用した授業実践例・アイデア
- ②活用に向けた課題や気になること

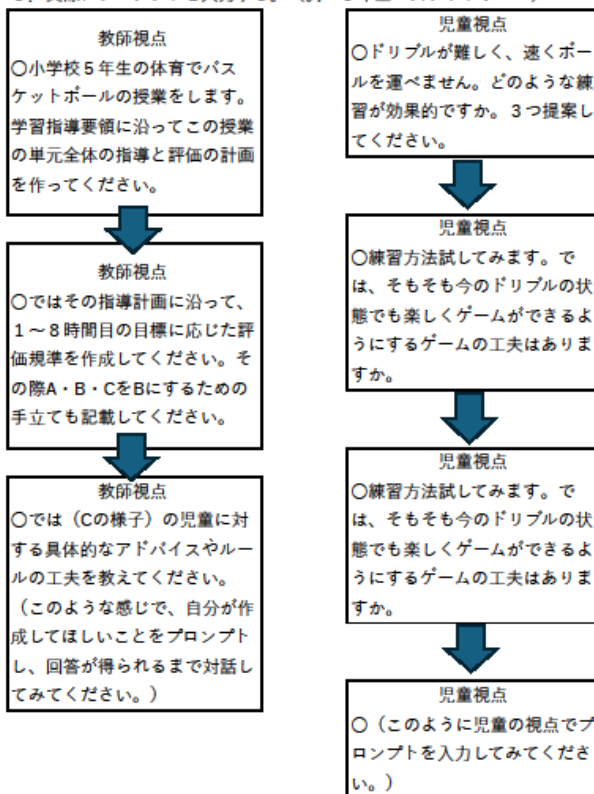


【演習】

演習

班で役割を決め生成AIにプロンプトを入力してみよう！

1. 4人のうち教師視点2名、児童視点2名の役割を決める。
2. 対象学年と単元を一つ決める。（例：5年生バスケットボール）
3. 実際にプロンプトを入力する。（例：5年生バスケットボール）



4. この単元のことで作成したいことが終わったら新たな学年、単元で試す。
 5. 入力した内容を全体で共有する。（発表時間2分以内）
- ※発表の際には有用な内容や、注意点等（ハレーション）があれば含めて



★児童が生成AIを活用することについて改めて確認

(1) 「ヒントをくれる仲間」であり「絶対の正解」ではない

- ・生成AIの出力はあくまでも「参考の一つ」「最適解とは限らない」
最後は人間が判断し、生成AIの出力結果を踏まえた成果物に
自ら責任を持つ

(2) 「安全第一」の判断は自分や先生で

- ・AIの提示した動きでケガの可能性がゼロとは言えない

(3) 身体を動かす時間が減ると本末転倒

- ・運動領域では身体を動かしながら三つの柱を育成する
体育科の価値

(4) 適切な利活用のための留意事項

- ・個人情報や機密情報の入力禁止徹底
- ・著作権侵害リスクへの適切な対応
- ・ハルシネーションやバイアスの見極めとファクトチェック